

## 社会 (Social)

関西ティーイーケイ(株)は、人権・雇用などあらゆる面で、多様性を尊重するとともに、ワークライフバランスの実現にも積極的に取り組み、「人を基本とする」経営を実践しています。調達においては、お取引先と協働して、CSRの取り組みを推進しています。ステークホルダーの皆様とコミュニケーションを積極的に図り、伺った声を活動に活かすことで皆様の信頼に応えてまいります。

### 人権推進と人財育成

関西ティーイーケイ(株)は、人財<sup>\*1</sup>の確保と育成、雇用の多様化に取り組むとともに、「社員の雇用を守ること」に努め、かつ人権を尊重し、常に職場環境の改善に努めています。

<sup>\*1</sup>：人が財産との主旨から当社では「人財」と表記しています

#### 東レグループ CSR ガイドライン

1. 東レグループ全体で人種、性別、学歴、国籍、宗教、身体的特徴などによるあらゆる差別の禁止を徹底するなど、人権を尊重し、実力による公平な登用を行います。
2. 活力にあふれ、誇りとやりがいのある職場風土を実現します。
3. 社員の育成機会を積極的に提供し、グローバルに活躍できる人財の確保と育成を推進します。

## マネジメント

### 【人権推進体制】

関西ティーイーケイ(株)では、「倫理委員会」のもと、「中央・人権安全衛生委員会」および各事業場(所)に「人権安全衛生委員会」を設けています。事業場(所)の委員会は毎月開催し、労使一体となって人権意識の啓発・向上に取り組んでいます。2014年度は、雇用の多様化が進んでいるなかで、今一度、人権尊重の原点に立ち戻り、人権を一人ひとりが自分の問題と捉えて他者の尊厳を尊重し、風通しがよく活力のある職場づくりを進めて行くことを活動基本方針として人権推進活動に取り組みました。

### 【人財育成の基本理念】

東レグループは、「企業の盛衰は人が制し、人こそが企業の未来を拓く」という基本的考え方のもと、人材をもっとも大切な経営資源と捉えています。関西ティーイーケイ(株)も、「人財の確保と育成」を最重要の経営課題のひとつとして取り組んでいます。すべての社員が働きがいを感じ、チャレンジ精神の旺盛な

明るく活力にあふれる企業風土を構築するため、社会の変化に応じて各種施策を実行しています。

### 人権推進への取り組み

東レグループは、「人権の尊重」は欠くことのできない企業運営の基本であると考えています。「企業倫理・法令遵守行動規範」にも人権尊重を謳うなど人権意識の啓発・向上に努めるとともに、人種、信条、肌の色、性、宗教、国籍、言語、身体的特徴、財産、出身地などに基づくあらゆる差別的な取り扱いを、募集・採用活動から配置・処遇・教育・退職に至るまで一切禁止しています。2014年度からは、性自認および性的指向による差別禁止の取り組みも開始しています。

また、国連人権宣言やILO条約などの国際ルールを尊重し、いかなる場合においても強制労働や児童労働を禁止するとともに、各国・地域の法令遵守を徹底しています。

### 【人権研修の実施】

関西ティーイーケイ(株)では、人権に対する正しい理解と意識向上を促すため、東レ(株)と同調し、毎年人権啓発キャンペーンを実施しています。2015年度のキャンペーンは、活動方針として

「思いやろう相手の気持ち 尊重しよう相手の立場」  
～ コミュニケーションを深め 笑顔と思いやりのある職場をつくらう ～

を掲げ、さらに、CSRにおける人権尊重の世界的関心の高まりについても各職場で理解を深めました。



また、各事業場(所)においては、毎月開催の人権安全衛生委員会および職場会などを利用した啓発活動を行うとともに、社員一人ひとりの人権意識高揚に向けて、東レ(株)の事業場・工場が実施する、実務担当者・管理者研修にも積極的に参加しています。

2014年度は例年実施される東レ(株)人権キャンペーンに参加し、全社へ横展開しています。さらに滋賀県や大津市、東レ(株)が開催する各種人権セミナーに出席、全社へPRしています。2015年度は、新たな試みとして東レ(株)人権推進課長の講演を計画しています。

### 【サプライチェーンにおける人権尊重】

関西ティーイーケイ(株)はサプライチェーンにも人権尊重を求め、そのことを「CSR調達アンケート」\*に盛り込んでいます。サプライチェーンに対してはアンケートや直接訪問を実施して状況を確認し、人権の面でも社会的責任を果たせるバリューチェーンの構築に努めています。

#### ※CSR調達アンケート

- |                 |                   |
|-----------------|-------------------|
| (1) CSR推進体制     | (5) ステークホルダーとの対話  |
| (2) 倫理とコンプライアンス | (6) 製品安全・品質保証     |
| (3) 安全・防災・環境保全  | (7) 人権・労働         |
| (4) リスクマネジメント   | (8) 情報セキュリティ・知財管理 |

### 新しい価値を創造する人財の確保と育成

関西ティーイーケイ(株)は、東レグループの企業行動指針に掲げる「人材重視」に基づき、企業の持続的発展のため、長期的視点に立って安定的かつ継続的に人財の採用を行っています。TPM活動の「人財育成部会」において、実情に即した全社的な人財の育成策を立案し、実行に移しています。

東レグループは、以下の3点を目標に人材育成を進めています。

- ・「公正で高い倫理観と責任感を持って行動できる社会人」の育成
- ・「高度な専門知識・技術、独創性を持って課題解決できるプロ人材」の育成
- ・「先見性、リーダーシップ、バランス感覚を持って行動できるリーダー」の育成

これらを実現するため、東レグループは、上記目標ごとに各種研修を体系的・合理的に整備し、あらゆる階層・分野の社員に対して、マネジメント力の強化、営業力・生産技術力や専門能力の向上、グローバル化対応力の強化などを目的としたさまざまな研修を実施しています。

関西ティーイーケイ(株)では、東レグループの各種研修に積極的に参加するとともに、実情に即して独自に、戦略的思考力・対人能力の向上を狙った「管理職研修」、「リーダー研修」などの階層別研修、営業力強化や設計力強化などの分野別研修を実施しています。さらに、TPM活動を通じて、個人別の育成計画を策定し、実行に移しています。

### ダイバーシティ推進への取り組み

東レグループは、多様な人々がそれぞれの能力を十分に発

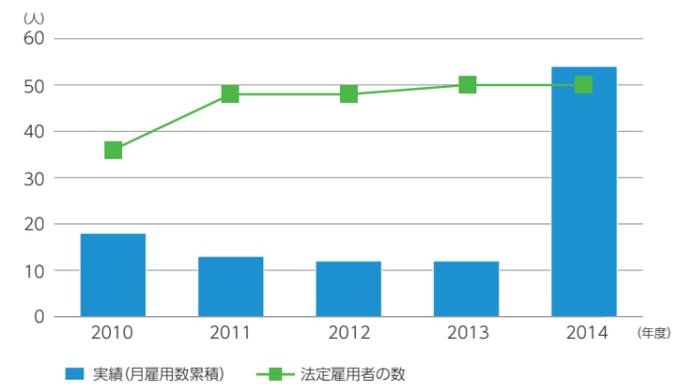
揮し、いきいきと働くことのできる職場の構築に向けてダイバーシティの推進に取り組んでいます。

### 【障がい者雇用】

東レグループでは、障がい者雇用を企業が果たすべき社会的責任のひとつとして捉えており、身体障がい者・知的障がい者・精神障がい者を採用・雇用しています。関西ティーイーケイ(株)は、真摯に仕事に向き合う障がい者とともに働くことで、社員全体のモチベーションを上げ、さらに職場の活性化を図って、障がい者の強みを活かした仕事の切り出しによって、新たなビジネスモデルを創出したり、障がい者に対応したプロセスの見直しや、職場全体の改革につながると考えています。

関西ティーイーケイ(株)は2013年4月に改正された法定雇用率2.0%を達成しています。今後も障がい者が働きやすい職場環境のハード面・ソフト面を含めた整備に積極的に取り組んでいきます。

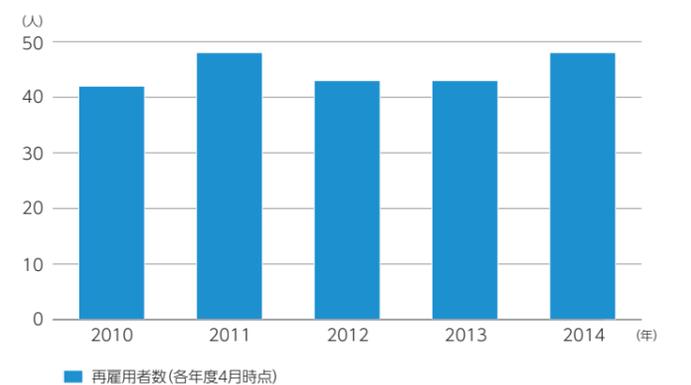
#### 障がい者雇用



### 【再雇用制度】

技術・技能の維持・継承、後継者育成の観点から、60歳を超える高齢者の活用を図るため、当社では1987年に再雇用制度を導入、世間に先駆けて「希望者全員を65歳まで再雇用」する取り組みを行っています。

#### 再雇用者数



## 社員が働きやすい企業風土づくり

### 【ワークライフバランスの実現に向けた取り組み】

関西ティーイーケイ(株)は、男女ともに多様なライフスタイルを選択できるよう、ワークライフバランスの実現に向けた制度の充実を図ってきました。特に、育児や介護、母性保護に関連した制度は法令で定められている以上の内容を設けており、各々の状況に合わせて利用しやすいように整備しています。

育児休職・介護休職に対する施策として 特別休暇・子の看護休暇・介護休暇に関する制度拡充、育児・介護など短時間勤務制度の短縮単位の見直しに関する制度改定を実施しました。さらに、ワークライフバランスを職場イノベーションの取り組みとして位置づけ、各職場での話し込みを通じた働き方に関する意識改革、全社一斉早帰りデーの実施(1日/月の設定)に取り組みました。時間外労働の削減や年休取得の促進については、継続的な取り組みにより、働きやすい就業環境づくりに貢献しています。

特に夏季ワークバランスについては、7月～9月に運動期間を設け、全社一斉早帰りデー：1日/月、リフレッシュデー：2日以上/週、年休・特別休暇取得・連続休暇の推進策として 本運動期間中に 5日連続休暇(定休日・特定休日含む)、5日間の年休・特別休暇の取得に取り組んでいます。

### 【女性が働きやすい企業風土づくり】

関西ティーイーケイ(株)では、1994年から育児休職制度を導入するなど、出産・育児の支援制度(図9参照)を整備し、職場環境の整備を進めてきました。現在では、出産する社員のほぼ全員が、産前・産後休暇、育児休職の制度を活用し、職場に復帰しています。復職後も育児短時間勤務制度を利用でき、多様な働き方を実現しています。

**Voice**

**三ヶ月 いつ子**

2014年8月より育児休職をとらせていただき、現在子育て奮闘中です。

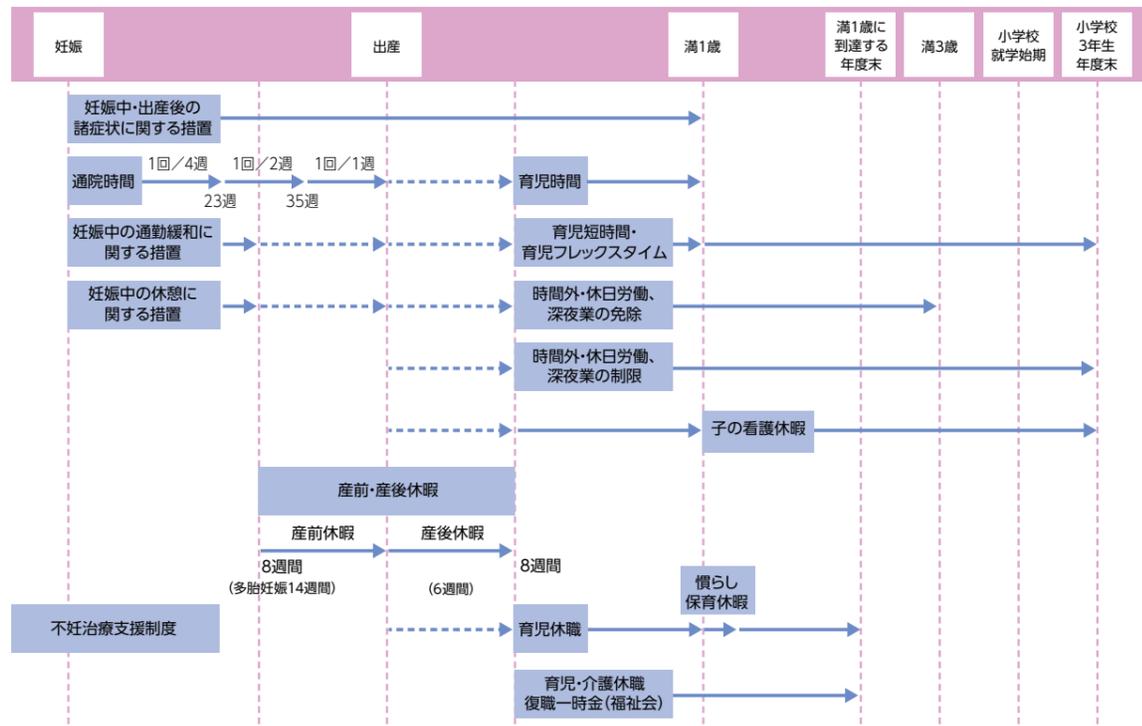
当社では、職場の女性のほとんどが育児休職を取っているため、働く女性にとってそれは普通のことだと思ってきましたが、出産後に知り合った一般社外の女性の多くが育児休職を取得できずに退職していることを知り、当社は女性にとって働きやすい職場であることを実感し、大変有難く思っています。

現在は毎日、日々成長する子供との生活を楽しみ、とても充実した毎日を送っています。

復帰後は、仕事と子育ての両立がうまくできるのか不安に思うこともありますが、職場の方に助けてもらいながら効率よく取り組んでいきたいと思っています。



図9 出産・育児の支援制度



## 製品の安全と品質

関西ティーイーケイ(株)は、製品安全と品質保証の管理体制を強化し、適切な情報提供に努め、安全で信頼性の高い製品を供給しています。

### 東レグループ CSR ガイドライン

1. 製品事故ゼロ件を達成します。
2. 東レグループ全体で製品安全と品質保証の管理体制を強化します。

## マネジメント

東レグループは「お客様第一の東レ」「品質の東レ」を具現化するために、製品安全と品質保証に関する方針のもと、二つを一体のものとして進める体制を整備しています。

### 製品安全管理の基本方針 1992年1月制定

1. 製品の安全性確保に必要な諸施策は優先して実施します。
2. 製品の販売に先立つ安全性評価検討を十分に行います。
3. 販売を開始した製品についても、一般・顧客情報に留意し、常に安全性に関する注意を怠りません。

### 東レグループ品質方針 2007年6月改定

全ての企業活動において、安全・環境と共に、お客様に提供する製品の品質を最優先し、「お客様第一」の姿勢で品質保証に取り組めます。

1. お客様の要望に応え満足いただける製品・サービスの提供に努めます。
2. 販売、生産、技術、研究等全部門は一貫して品質第一の思想に徹し、製品の品質と信頼性の向上に努めます。
3. 品質要求を達成するために、品質は設計と開発の段階で確立し、製造工程で作り込みます。
4. 品質保証体制を継続的に整備し、維持・向上に努めます。

### 【製品安全活動の推進体制】

関西ティーイーケイ(株)は、製品の安全に関する全社の重要問題を審議する常置機関として「製品安全委員会」を設け、毎年1回開催しています。委員長は社長、委員は製品安全管理責任者の上位監督責任者(製造担当役員)で構成しています。

また、東レエンジニアリング(株)が開催する製品安全専門委員会に、社長が選任する専門委員が開催の都度参加しています。

## 製品安全・品質保証への取り組み

### 【製品安全性審査への取り組み】

関西ティーイーケイ(株)では、製品安全管理責任者は製品をランク付けし、

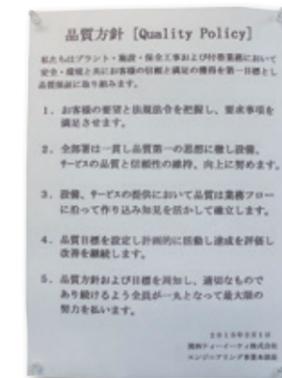
- ① 初めて社外で使用し、または試験販売もしくは頒布しようとする製品
- ② 上市しようとする製品
- ③ 事故(リコールを含む)および法令違反の発生その他製品の安全性に疑いが生じた製品
- ④ 用途が変更される製品
- ⑤ 製品安全性審査会の審査を過去に経ていない製品
- ⑥ 製品の性質に応じまたは開発投資の段階に応じて、安全性の検討が必要と考えられる製品

などについては、製品安全性審査会の開催を含む製品安全性審査を製造担当役員に要請するという取り組みを行っています。この審査会に合格して初めて製品の市場投入を認める仕組みとしています。

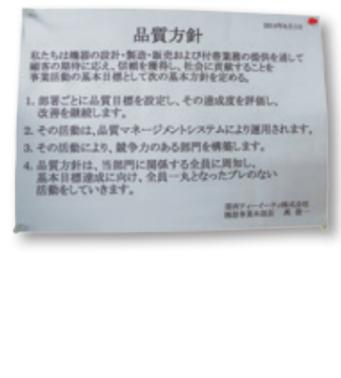
### 【品質保証活動推進への取り組み】

品質の規格標準としてISO9001が、製造業に導入されてから長い年月を経て今日に至っています。東レ・東レエンジニアリンググループの一員である関西ティーイーケイ(株)では、プラント建設と機器製作においては東レエンジニアリング(株)、また東レ製造設備の施工と保全においては東レ(株)のISO9001に準じた品質管理を行ってきました。しかしながら更なる品質管理の向上と、昨今のお客様の厳しいご要望に応じてご満足を得るために、新たな視点で当社独自にISO9001を導入することにいたしました。エンジニアリングと機器の両事業本内に品質保証室を発足させて、仕事の質の更なる向上を図るとともに、ISO9001の認証取得に機器事業本部が先行して(2015年5月取得予定)取り組んでいます。

エンジニアリング事業本部  
品質方針 (2015年2月制定)



機器事業本部品質方針  
(2014年6月制定)



サプライチェーンにおけるCSRの推進

関西ティーイーケイ(株)は、調達・購買先、買付先、委託加工先、販売先、物流会社と協働し、CSR調達などサプライチェーン全体でのCSRへの取り組みを促進しています。

東レグループ CSR ガイドライン

1. 重要な購買先、外注先に対してCSR調達を要請します。
2. 販売先からのすべてのCSR調達アンケートに対応します。
3. 東レグループ全体でCSR調達の体制を整備します。

マネジメント

東レグループは、調達パートナーであるサプライヤーや物流パートナーとともに社会的責任を果たせるバリューチェーンを築き、お客様に環境や社会面に配慮した素材製品を供給するために「CSR調達ガイドライン」を制定しています。

CSR調達ガイドライン 2004年12月制定

1. CSR推進のための社内体制を確立し、誠実に取り組むこと
2. 企業倫理と法令遵守の強化・推進を図ること
3. 安全・防災・環境保全をあらゆる経営課題に優先すると共に、グリーン調達・購入の推進に配慮すること
4. 不測の事態への迅速な対応の確かな情報開示をするなど、リスクマネジメントを展開すること
5. ステークホルダーとの対話と協働を促進すること
6. 製品の安全性確保を製品供給にあたっての前提条件とすること
7. 人権を尊重して、あらゆる差別を排除し、職場環境の改善に努めること  
また強制労働・奴隷労働・児童労働・不当な低賃金労働をさせないこと
8. 機密情報の漏洩防止および知的財産の尊重をしていること

関西ティーイーケイ(株)のCSR調達・購買活動

関西ティーイーケイ(株)は、お客様にご満足いただける商品・サービスを提供するため、以下に定める調達基本方針に基づく

調達活動を行います。また、調達活動において、取引先とともに企業が果たすべき社会的責任を追求します。

関西ティーイーケイ(株)の調達基本方針 2014年12月制定

1. 門戸開放方針  
私たちは当社の商品に使われる部品・材料・機器・工事等の調達に関して、国内外を問わず広く門戸開放します。
2. お取引先様との共存共栄  
私たちはお取引先様とは「共存共栄」を基本とし、相互発展を図ります。そのため、お取引先様とは緊密なコミュニケーションにより、強い信頼関係を築くように努めます。
3. グリーン調達の推進  
私たちは「環境に配慮したお取引先様から環境負荷の少ないものを調達する」ことを目指し、グリーン調達の推進を図ります。
4. 法令遵守と機密保持の徹底  
私たちは調達活動において関連する法令を遵守します。
5. 反社会勢力との関係遮断  
私たちは反社会勢力との関係の遮断を徹底します。
6. 品質の維持・向上  
私たちはお取引先様とともに当社商品・サービスの維持・向上に努めます。

【グリーン調達の推進】

関西ティーイーケイ(株)は、東レグループの一員として東レ(株)の取り組みと協調し、CSR活動推進の一環として地球環境保全を経営の優先課題の一つと認識し、[地球環境貢献]と[製品の安全と品質(確保)]を目的として、お取引先様と一体となり、グリーン調達を推進しています。

◆調達部における基本姿勢

これまでの「S(安全)」、「Q(品質)」、「C(価格)」、「D(納期)」に加え、「E(環境)」を調達基準の重要な要素と位置付け、下記を基本姿勢としてグリーン調達を推進しています。

1. 環境保全活動に積極的なお取引先様の製品を優先的に採用させていただきます。
2. 環境負荷低減とリサイクルを考慮した材料・部品・装置・役務等を優先的に採用させていただきます。

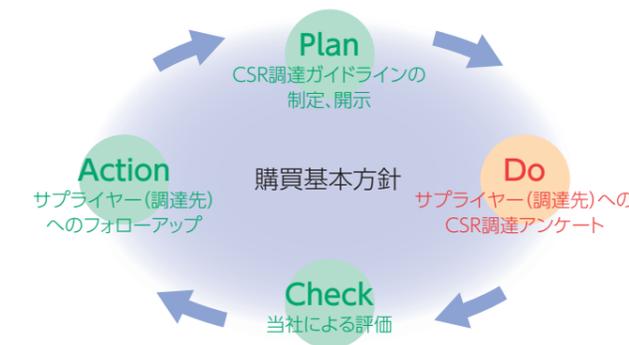
◆お取引先様との一体活動

1. 環境保全活動  
環境保全活動の一環として、関西ティーイーケイ(株)の基準を満たすお取引先様を「グリーンサプライヤー」とし、そのお取引先様の製品等を優先的に採用させていただいています。また、お取引先様に、この「グリーンサプライヤー」になっていただけるよう、環境マネジメントシステム取得の推奨をはじめとする、さまざまな一体活動を推進しています。
2. 環境リスク物質調査  
環境リスク物質類の調査につきましては、要調査となった段階におきまして、対象となるお取引先様へ別途詳細を連絡させていただいています。

【CSR調達の推進】

関西ティーイーケイ(株)は、CSR調達を継続して推進するにあたって、定期的にサプライヤーに対しCSRの取り組み状況を確認するため、「CSR調達アンケート」を配信しています。各社からの回答内容を回収・分析し、評価結果のフィードバックを行い、一部の取引先を訪問するなどして、各社のCSRの取り組み状況を確認し、パートナーシップのさらなる向上に向けた改善を依頼する形で、PDCAサイクルを構築しています。

なお、「CSR調達アンケート」内容については、当社のCSR調達ガイドラインに沿った各社のCSR推進状況を確認しており、2014年度は、新たに89社を実施しました。



【サプライチェーン全体でのCSR調達の取り組み】

関西ティーイーケイ(株)は、取引先、外注先に対して、取引基本契約書に法令遵守、環境などのCSRに関する条文を記載し、契約の新規締結時や改訂時に切り替えを実施しています。また、販売先からの「CSR調達アンケート」への対応比率100%を目標に、取引先、外注先のみならず、販売先も含めたサプライチェーン全体でのCSR推進に取り組んでいます。

コミュニケーション

東レグループは、社員、株主・投資家、取引先、消費者、地域社会、NPO、政府・行政、マスメディアなど各ステークホルダーとの対話と協働を促進しています。

東レグループ CSR ガイドライン

1. 「ステークホルダーとの対話の促進に関する基本方針」の通り、ステークホルダーの満足度を向上させます。
2. 各ステークホルダーとの対話と協働を適時適切に経営行動へ反映させます。

マネジメント

東レグループは、すべてのステークホルダーとの対話と協働の促進を重視した経営を進めており、それを実現するため「ステークホルダーとの対話の促進に関する基本方針」を掲げています。この基本方針のもと、企業活動のあらゆる場面でさまざまなステークホルダーとのコミュニケーション活動を展開しています。

ステークホルダーとの対話の促進に関する基本方針

2005年9月制定

1. 東レグループをあげて、すべてのステークホルダー、すなわち、お客様、株主・投資家、お取引先、社員、行政、地域社会、NPO、市民、国際社会、マスメディアなどとの対話と協働を促進します。
2. 東レグループ各社は、ステークホルダーとの対話と協働を通じて、皆様の満足度の向上に向けた行動改革に取り組むこととします。
3. 東レグループ社員は、各々の職場単位で、CSR活動推進の一環として、ステークホルダーの満足度向上のための課題を設定し、その解決に取り組めます。

お取引先とのコミュニケーション

関西ティーイーケイ(株)では、いかなるお取引先にも平等に門戸を開放し、誠実、公正に対処することを心がけています。また、共に企業活動に取り組むパートナーとして、常日頃のコミュニケーションに加え、「CSR調達アンケート」などを通じて、相互理解を深めています。

Voice



管理・調達部門  
調達部長  
たかだ まさひこ  
高田 昌彦

調達部は、当社がお客様から受注した案件の要求(価格、機能、納期)を満足する設備・装置を納入するための機器・材料および工事など(比例費)の調達業務を担当しており、それぞれの調達先の選定と価格の決定責任を担っています。つまり、当部の使命は、「比例費の削減」です。

これらの調達業務を遂行するためには、調達品の商品知識はもちろん、契約に関する法律などの関連知識も不可欠なため、あらゆる機会を利用してその習得に努めています。調達部は、営業部署とともに、社外のお取引先様と商取引を行う企業の顔(窓口)として、CSR調達を基本に常にお取引先様とは、良好な関係を構築すべく「WIN-WIN」の結果を導き出すことを心がけています。

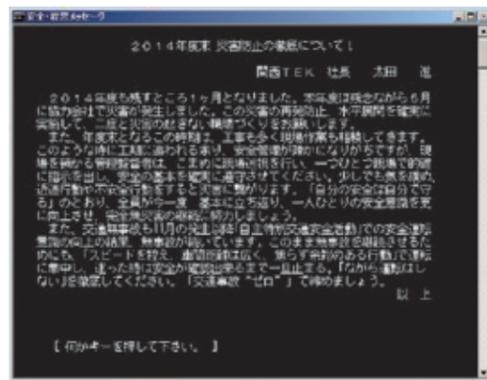
## 社員とのコミュニケーション

関西ティーイーケイ(株)では、パソコン起動時に社長メッセージ(下写真参照)を表示し、トップの意志を全社員に伝達するようになっています。社長メッセージは毎月更新しています。

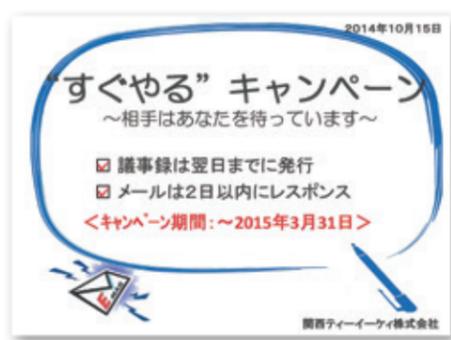
社長より迅速な業務遂行の指示を受け、「すぐやるキャンペーン」として全社展開し、「議事録は翌日までに発行」「メールは2日以内にレスポンス」の2項目のポスターを作製し、重点的にPRしています。

TPM活動において、社長が各職場に出向く機会を、「社長指導会」(P.7参照)として設けています。「社長指導会」では、その職場全員が集まり、社長の前で業務内容・業務上の問題点・解決への取り組み状況を説明し、社長から直接意見・指導を受けています。

パソコン起動時の社長メッセージ



社長指示のもとづくキャンペーン



**Voice**

滋賀事業所

こふじ たかし  
小藤 卓

私が所属している東レ滋賀ボート部は、1949年の創部より全日本選手権大会優勝はじめ、オリンピック・世界選手権の日本代表選手を数多く輩出するなど、好成績を収めてきました。また、2007年から毎年行われる瀬田川水辺協議会主催の清掃活動「瀬田川クリーン作戦」に、地域の方々とともに参加しています。このような地元の方々のおかげで日々練習に取り組んでいることを忘れず、地域とともに発展する東レグループの一員として自然環境について考え、こうした社会貢献活動に積極的に参加していきたいと思っています。



## 社会貢献活動

東レグループは、よき企業市民として、地域づくりや未来世代育成に役立つ活動をはじめとした社会貢献活動を推進しています。

### 東レグループ CSR ガイドライン

1. CSR活動とのつながりを意識し、「東レグループ社会貢献方針」にのっとり、教育・環境・地域・社員を重点領域として、自主的かつ継続的に社会貢献活動を行います。
2. 東レグループの強みや地域の特性を活かし、質の高い教育支援に取り組みます。

## マネジメント

東レグループは、社会の一員として責任を果たし、自主的かつ継続的に明確な方針をもって社会貢献活動に取り組むことを目的に、2005年に「東レグループ社会貢献方針」を策定しました。この方針は、企業理念「わたしたちは新しい価値の創造を通じて社会に貢献します」に基づいて策定されたものです。

### 東レグループ社会貢献方針 2005年5月制定

1. 東レグループは、企業理念「新しい価値の創造を通じて社会に貢献します」に基づき、地域社会・国際社会のなかで、よき企業市民として、それら社会の持続的発展に貢献するとともに、社員の社会貢献活動を継続的に支援します。
2. 東レグループは、科学技術の振興を柱として、地域の社会福祉向上、伝統文化を通じた国際交流支援、スポーツ振興などのプログラムを独自に推進していきます。
3. 東レグループは、ボランティア活動など社員の社会参加を促進するため、会社表彰制度などで風土の醸成を図り、地域に根差した支援活動を行います。
4. 東レグループは、マーケティング活動や広報・宣伝活動を行う際も、その実施内容について、常に社会貢献の観点から見直し、実行します。
5. 東レグループは、連結経常利益の1%程度を目安に、社会貢献活動に資金などを拠出していきます。

## スポーツ振興を通じた地域社会への貢献など

### 東レ滋賀ボート部による地元中学生の指導

東レ滋賀ボート部は、日本有数の実業団チームです。関西ティーイーケイ(株)社員にもボート部OBがおり、現役引退後に、地元からの要請に応え中学生の強化・指導を任されている者もいます。2014年7月19日～20日に岐阜県で開催された「第34回全日本中学選手権競漕大会」では、地元中学校が男女とも総合優勝を果たし、喜びを分かち合いました。



地元中学生を川岸から指導する当社ボート部OB社員

### 東レ愛媛サッカー部による少年サッカー指導：愛媛北伊予ジュニアフットボールクラブ

北伊予ジュニアフットボールクラブは1993年4月に地域サッカー復興のために発足後22年経過し、現在は約40人の子供達が在団しています。関西ティーイーケイ(株)社員も含め選手・チームスタッフ全てが地元の人であり、少年サッカーの指導を通じてコミュニケーションを図り、「サッカーが好き・サッカーが楽しい・サッカーが上手になりたい」と思ってもらえるよう成長をサポートしています。今後も、子供達とサッカーを楽しみながら色々なことを学び経験し地域貢献していきます。



### 東レ滋賀柔道部による少年柔道教室

東レ滋賀柔道部では、地域貢献活動の一環として、1974年から約40年間にわたり小学生を対象にした柔道教室を開催しています。関西ティーイーケイ(株)社員も指導員の一員として、柔道を通じて健全な青少年の育成に努めています。

その柔道教室の活動の一つとして、年に一度、近隣の柔道団体を招いて東レ交流会を実施しており、今回で7回目となり、愛知県の東レ岡崎工場柔道教室をはじめ、兵庫県、奈良県、京都府など県外からも多くの方に参加していただいています。(11団体、総勢168名の小学生)

今後も、この交流会をはじめ地域貢献活動に努めていきたいと思っています。



第7回東レ少年柔道教室交流会 2014年11月22日(土) 於：滋賀県立武道館

## 地域の消防団活動を通じた社会貢献

関西ティーイーケイ(株)の社員の中には、地元の消防団に加入し有事の際にいつでも活動できるように、機器の点検、火災を想定した訓練、地域の皆様への啓発活動、各自治会への消火活動指導などを実施している者がいます。最近では、火災消火活動以外にも、台風接近に伴う水防団としても有事の際に最前線で活動しています。今後も、地域の安心・安全を守り、合わせて、地域住民の防災意識の向上に努めていきます。

